

## 化粧土の調製(生化粧と素焼化粧)

化粧がけ(エンゴベ、スリップ)とは器の肌を別種の土で覆い下地を整え、地肌を美しく装う技法である。この時の下地の素地はあまり白い素地でなく焼き上がりが灰色がかったり、赤かったりする有色素地である場合が多い。そのため化粧に用いられる土は白土を用い、化粧がけのことを白化粧ともいう。

白化粧は普通白絵土と呼ばれるカオリン質粘土を用いているが、陶石、ろう石や長石、石灰石なども用いられている。この場合焼き上がりの色が白くまた地肌との密着が良いことが基本となる。化粧が強すぎると剥離、部分的めくれが生じ、媒熔剤が多く弱い化粧では素地と釉が溶けあって下地の色が透けて化粧の役を果たさない。

白化粧の応用として刷毛目、三島、搔き取り、いっちゃん、墨流しなどのほか白化粧に顔料を添加した色泥しよう、色象がん、練り込み、色素地などの種々の技法に利用できる。

本実習ではカオリンと蛙目を等量混合したものと天草陶石、益田長石を組み合わせ素焼き・生化粧の基礎調合を行う。

### 【実験内容】

◆使用素地原料……… 朝鮮カオリン、天草皿山陶石、益田長石(200メッシュ)

◆使用素地……… 赤土(泉陶料)

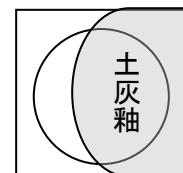
◆釉薬……… 土灰釉(日本陶料)

#### 【施釉方法】

生素地及び素焼き素地に化粧を施した後、

素焼きし、施釉する。

2/3程度施釉し、一部焼き締めにする。



◆焼成……… 酸化焼成1230°C

還元焼成1250°C

冷却還元焼成1250°C

◆調合量……… 50g調合 20分粉碎

#### 【水分量について】

ポイントにより泥しようの粘性が変わるため、水は少なめで粉碎後、適量水を加えて生化粧した後、再度水を添加して、素焼化粧する。

素焼化粧は表面を掃除した後に施す。

生化粧は乾燥の程度を見計らって施す。

厚さは1mm程度とする。

◆ピース数……… 生素地 ポイント × 焼成 × 人数(1セット産技研用)

$$15 \times 3 \times 5 = 225\text{個}$$

素焼素地 ポイント × 焼成 × 人数(1セット産技研用)

$$15 \times 3 \times 5 = 225\text{個}$$

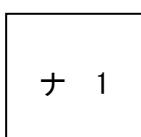
◆裏書……… 生化粧用は生土ピースに彫る。

素焼化粧用は呉須、冷却還元用は白呉須を用いる。

ナ:生素地

ス:素焼素地

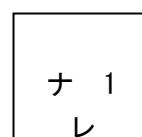
レ: 冷却還元



OF



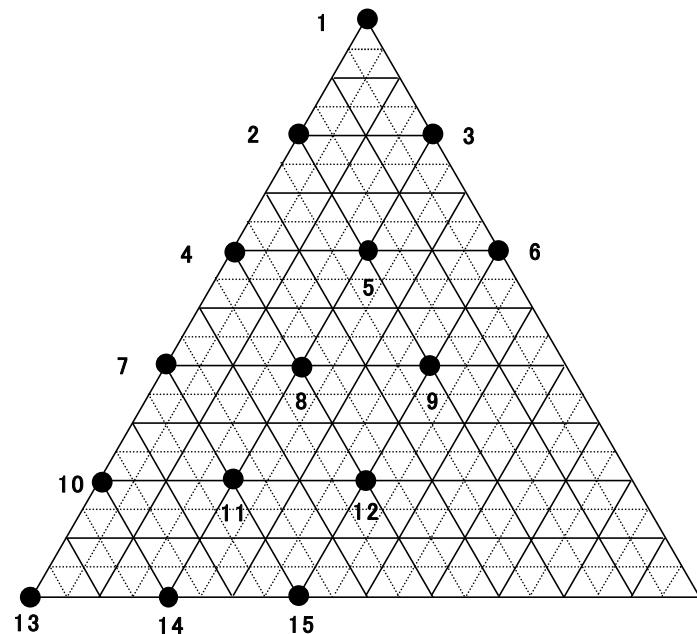
RF



冷却還元

◆ポイント

## 朝鮮カオリン



天草陶石

益田長石

### ■調合表(50g)

ポイント	朝鮮カオリン	天草陶石	益田長石	ポイント	朝鮮カオリン	天草陶石	益田長石
1				9			
2				10			
3				11			
4				12			
5				13			
6				14			
7				15			
8							

### ■調合担当

氏名	ポイント
清水	1~4
村木	5~8
横山	9~12
NG	13~15